

貫芳祐教授退職記念号に寄せて

経済学部長 奥山利幸

貫先生は、2017年2月に古希を迎えられ、同年3月末日をもって法政大学経済学部を定年退職されることになりました。先生は、1988年4月に本学部に「国際関係論」「政治学」ご担当の教員として着任されて以来、29年の長きにわたり、本学部教授として在職して来られました。経済学部学会では、ここに先生の退職記念号を刊行し、これまで先生が法政大学、並びに法政大学経済学部の発展のためにご尽力くださったことに感謝の気持ちを表し、『経済志林』本号を先生に捧げるものです。

貫先生は、1947年兵庫県にお生れになられ、1985年にミシガン大学にて政治学でPh.D.を取られ、国内では日本国際政治学会会員、また海外ではハーバード大学センター・フォー・インターナショナル・アフェアーズやジョンズ・ホプキンス大学高等国際研究大学院（SAIS）ポローニャ・センター、パリ政治学院センターフォーポリティカルスタディーなどの客員研究員を務めて来られました。

先生のご専門は、国際政治学、国際関係論であり、とりわけゲーム理論や経済学の分析手法を応用したご研究が多くございます。先生の研究業績の詳細につきましては、『経済志林』本号に後述の一覧をご覧ください。とありますが、『経済志林』にご投稿くださった論文の中でごく近年の研究を数点取り上げますと、参入阻止ゲームをEU経済通貨統合（EMU）の促進、維持のための安定・成長協定（SGP）の持続性に応用した2014年の研

究や、ギリシャ危機におけるギリシャへの支援を巡るEUとギリシャの間のやりとりを不完備契約理論から分析した2016年の研究などがございます。このように、退職される間際まで、精力的に研究を発表されて来られました。

経済学部と同僚には、貫先生と直接共同研究を進めて来られた先生も少なくなく、我々は先生が退職されるのをとても残念に思うところです。退職後もますますお元気にてご活躍くださるようお祈り申し上げますとともに、今後も学部の外より末永く学部、そして、大学の発展のためにお力添えをくださるようお願い申し上げます。